

# おおさか 広報 さやま

No. 299

1 月号

Jan—1994



▲ 狭山池中樋遺構

謹 賀 新 年



市長 酒谷忠生



議長 中嶋廣市

生き続ける文化財狭山池。現在は「平成の大改修」により狭山池ダムに生まれ変わろうとしています。

この改修に併せて今まで数多くの発掘調査を行ってきましたが、このほど新たに、北堤の取水塔の下から水田灌漑用の取水機能を果たした樋の構造を示す遺構を発見しました。

古墳時代の石棺、鎌倉時代の池の改修記念碑、江戸時代の中樋など、三つの時代にわたる遺物が一緒に集まっていたのです。



## 2 特集：狭山池近況報告

4 非常に貴重なくりぬき式の家形石棺  
あなたのアイデアで桜を残しませんか

6 (仮称)財団法人大阪狭山市施設管理公社職員募集  
所得税の確定申告説明会

8 情報チャンネル  
ストーリーテリング入門講座

10 情報チャンネル  
新春こどもまつり

12 plaza PLAZA  
街角に生きる ⑦⑧

14 クラフトピックス  
ファミリーアウトドア教室

16 民俗の鼓動 ②①  
みんなの幸せのためにみんなで考えよう ⑧①

18 健康ガイド  
腰痛教室 8020相談会

20 お知らせのページ  
住民票・戸籍謄(抄)本は郵便でも請求できます

22 お知らせのページ  
保育所の入所申請は10日(月)から受け付け

24 眺めのいい風景 ⑨  
スイートランド ⑩

## 市 民 憲 章

わたくしたちの狭山は、金剛・葛城をあおぎ、  
水豊かな狭山池の美しい自然と古い歴史に恵まれ  
たのびゆくまちです。

わたくしたちは、このまちに住むことに誇りを  
もって、よりよいまちを築くためにみんなの願い  
をこめて、この憲章を定めます。

わたくしたちは、

1. 思いやりの芽を育て、明るく楽しいまちをつくりましょう。
1. 自然を愛し、美しく住みよいまちをつくりましょう。
1. 健康で働くよるごびをもち、心豊かなまちをつくりましょう。
1. 教養を高め、知性に満ちた文化のまちをつくりましょう。
1. 幸せを願い、夢と希望のあるまちをつくりましょう。

## 人 の 動 き

11月30日現在 人口55,386人 (前月比-22)  
女 28,322人 男 27,064人 18,900世帯

僧・重源ちようげんが行った狭山池改修が明らかに

▲中樋の四段目部分を検出

日本最古のため池といわれる市のシンボル狭山池を調査している狭山池調査事務所では、このほど狭山池北堤内側の取水塔の下から「狭山池中樋遺構」を発掘しました。これは、大正から昭和にかけて大規模な改修工事が行われたときに、近世以来使われてきた樋管が撤去されましたが、底樋だけは残されているとの記録があるために今回調査を実施したものです。

この調査により出土したものは、近世初期に築造された狭山池中樋の四段目部分、鎌倉時代初期に僧・重源が築造した石樋、重源が行った狭山池改修のことを記した記念碑などです。

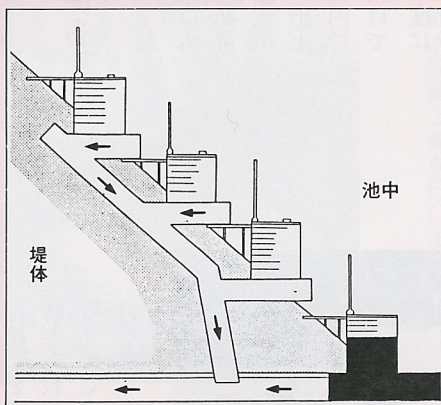
また、重源は古墳の家形石棺を石樋に利用していたことなどがわかりました。

## 近世初期に築造された

## 中樋の四段目を検出

狭山池は近世初期に改修工事が行われ、以来中樋と西樋の二つの樋がありました。ともに四段の尺八樋とよばれる形式の巨大な樋で下の図のような構造をしていました。

今回出土したのは底樋で、図の黒色にあたる部分です。慶長十三年に豊臣秀頼の命で片桐且元かたもとが、築造にたずさわったとされています。残存する部分は、高さ一メートル四六センチ、横幅



近世の尺八樋復元図  
(黒色部分を今回検出)

一メートル四七センチという大きなものでした。全体は箱状に造られており、一段前の部分には、樋を安定させるため板状の平たい石が敷かれていました。樋は木製で大半が檜ひのき、蓋ふたの部分には楠くすのぎが用いられていました。また材木は、船に用いられていた古材を転用したものと考えられています。

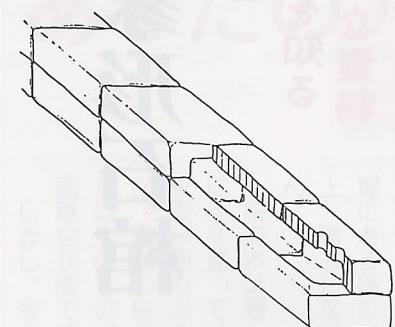
鎌倉時代の重源の工事は  
古墳の石棺を再利用

今回発掘した中樋の両脇には、西に六個、東に五個、合計十一個の石が置かれていました。このうち十個は、古墳時代の家型石棺を利用したものと考えられています。これは、もともと鎌倉時代の僧・重源が左の図のような石樋管を造りましたが、慶長十三年(一六〇八)の改修のときに、今回発掘した状態に置き換えられたと考えられています。

また、残る一つは、鎌倉時代初期に重源が行った狭山池の改修工事を記した記念碑も見つかりました。

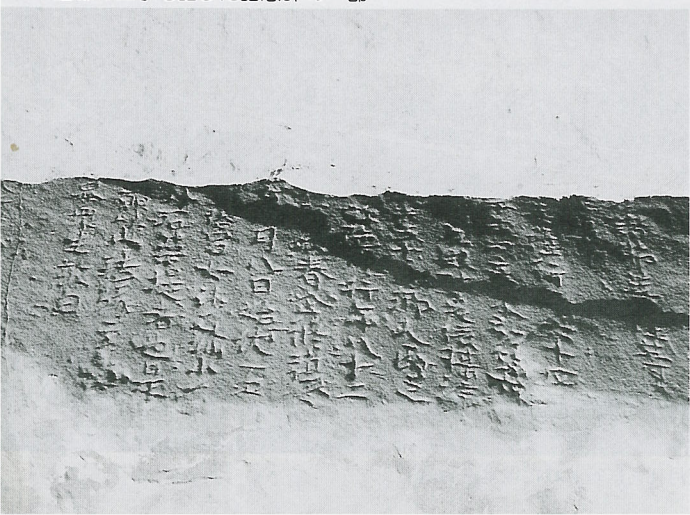
石碑には、「工事は建仁二年(一一二〇二)の春から企画し、二月七日より土を掘り始め、四月八日から石樋を伏せている」という意味のことが刻まれていました。

この内容は、建仁三年(一一二〇三)に重源自身が著したとされる『南無阿弥陀仏作善集』や江戸時代初期の僧が著した『狭山池修復記』の内容とほぼ一致していることがわかりました。



中世の石樋管復元図

▼重源の工事を記した記念碑の一部



碑文の文末には、「大勸進 造東大寺大和尚 南無阿弥陀仏(重源)の名とともに「順阿弥陀仏」物部為里「唐人大工守保」などの人名がありました。これらの人名は、先ごろ東大寺南大門の金剛力士像の胎内から発見された經典にも記されています。

## 重源

保安二年(一一二二)〜元久三年(一一二〇六年、鎌倉時代前期の僧。  
治承四年(一一八〇)に平家の南都焼き打ちにより災上した東大寺を復興させるために、東大寺造営勧進職に任ぜられた。六十一歳のときから二十年以上かけて再建に尽力した。

▲材木には船の古材を利用



# 非常に貴重なくりぬき式の家形石棺



大王級の石棺である可能性も

中樋の両脇から検出された石材は、大半が古墳時代の石棺です。この石棺は六〜七世紀のくりぬき式の家形石棺で非常に貴重なものです。兵庫県加古川流域の石材を用いたこの種類の石棺は、出土例が少なく、奈良県でも十数個、河内では、太子町で一つ発見されているだけです。そんな珍しい石棺も含めて、一度に十個も発見しました。

このうち大きいものは、相当身分の高い人の古墳に入っていたと考えられ、大王級のものである可能性もあります。

重源はこのくりぬき式の家形石棺の小口の部分をくりぬき、上下に重ねたものを連続させて、樋管に使っていたと考えられています。(3ページ、中世の中樋複元図参照)

## 中世の灌漑技術を知る 貴重な資料

石材の中には、一つだけ小口を片一方しかくりぬいていない石棺がありました。この石棺には裏面に丸い穴(直径三五センチくらい)が二つ開けられていました。おそらく、この穴に太い柱を差し込み、柱を上下させて水を出していたと考えられます。

池の樋管は木製であるのが一般的で、今回のような大きな石(古墳の石棺)を利用したものは珍しく、石碑とあわせて中世の土木技術を考えるうえでの第一級の資料といえるものです。



▲丸い穴が二つ開けられた石棺

## 石棺を石樋に利用

するとは……

大阪狭山市史編さん委員長

門脇 禎二さん

久しぶりに心を動かされる発掘に出会いました。古墳の石棺を石樋に利用しているとは驚きました。また、狭山池の改修工事や当時の土木技術を知る具体的な資料として大変意義のある発掘であると確信しています。



## 平成の大改修進行中

- 今年度も引き続き池の内外で、次のような工事を行っています。
- ① 池底を掘削します。
  - ② 掘削した土をストックヤードに仮置きします。
  - ③ 仮置きしている土を三津屋川沿いの棧橋を使って場外へ持ち出します。
  - ④ 付替道路の残りの工事を行います。
  - ⑤ 東除川改修工事を行います。
  - ⑥ 付替水路の工事を行います。
  - ⑦ 取水設備工事を行います。

## 特集：狭山池近況報告



▲着々と工事が進む狭山池(産経新聞社提供)

市の木

## あなたのアイデアで桜を残しませんか

〈問い合わせ〉  
大阪府富田林土木事務所  
狭山池ダム建設工区 ☎66-9560



▲長年親しまれてきた桜

## いよいよ北堤の桜を撤去します

長い間、池の美しさを代表するものとして狭山池の桜は、皆さんに親しまれてきました。狭山池は現在、これまでの灌漑目的のほか、洪水調節目的をもたせるために、大阪府により、「平成の大改修」を行っています。この工事は堤防に土を盛り、強固なものに改修するものですが、今の堤にある桜の木は堤防の安全上、撤去しなくてはなりません。

桜の木は新しい堤防に余分に土を盛って、狭山池の周囲を取り囲むように再生しますが、現在の桜の木は樹齢五十年以上のものがあり、移植が困難な状態です。

しかし、今まで市民に親し

まれてきたものですから、単に切るだけでなく桜の木を利用した木製品を作り、何らかの形で残したいと考えています。製作が可能なものであればどんなものでもかまいません。皆さんのアイデアをお待ちしています。

〈応募期限〉31日(月)まで  
〈応募資格〉市内在住・在勤・在学の人  
〈応募方法〉官製はがきに、あなたのアイデアと簡単な説明を付けて、住所・氏名・年齢・職業を書いて郵送してください。

〈応募先〉〒589大阪狭山市半田六丁目一〇一三、大阪府富田林土木事務所、狭山池ダム建設工区



▲樹齢五十年を超える桜も多い